

南奥駆道（持経宿から前鬼）の巡視・整備

◇実施日…2020年4月18（土）、19日（日） 晴

◇参加者…【巡視班】 児嶋道夫、中前偉、山川治雄、野崎肇、志岐敬、梶野照雄

【車回送など】 沖崎吉信、大江加予子、畑林清子、濱野兼吉、生熊千万子、竹中卓治、高階美根子、湯川一郎
14名

18日（土）、大淀町のライフで食料を調達して前鬼口に向かう。時間帯は違うが、先週よりも通行量は少なく12時20分前鬼口に着いた。野崎さんは到着していた。

晴れてはいるが風が強く、外で昼食を食べていると少し寒さを感じる。20分ほどで沖崎車が到着、3台で前鬼へ向かった。

小仲坊で五鬼助さんに挨拶し、荷物を沖崎車に積込みスポーツ公園に向かう。国道の通行止め迂回路も殆ど待つことなく通過し、スポーツ公園に着いて数分後、中前、山川車が到着した。全員沖崎車に乗り込み持経宿を目指す。途中、落石を除けるために2回降車、倒木を一本切除した。一時間で持経宿に到着、小屋内外を掃除して水汲みを中前さんをお願いする。

沖崎さんは20分ほど滞在して帰新、明日は7名で太古の辻まで迎えに登ることだった。

水場の取水口は掃除したが、ホースは掃除していないということだ

ったので、水場に向かう。雨の後なので水場の水流はかなり多く、沢の岩盤全面に水が流れていたが、ホースの先端からの水は少なく、詰まっていることは明白だった。ホースの継ぎ目を外すと枯葉と泥が一杯詰まっていた。少し突くと水圧で勢いよく泥が飛び出し、よく水が出るようになった。外した先端部のホースは、一旦逆向きに繋ぎ、水流で中のゴミを流し出した。



持経宿に到着



水場のホースを掃除



ミニ宴会中

小屋に戻ってもまだ5時前、外は明るい風が強く、屋外で作業する状況ではない。ストーブのおかげで、8℃だった室温が12℃迄上がってきた。児嶋さんのコーヒーのあと、差し入れの刺身などでミニ宴会が始まる。午後6時過ぎ、買ってきた天井を電子レンジで温めようとしたが、電子レンジが動き始めると発電機のエンジンが止まってしまう。数回チャレンジしたがやはりストップする。以前は止まらなかったもので、発電機が弱ってきているようだ。

午後7時半、お堂にあった御供も含めて、酒類は全部空になった。

室温は18℃、中前さんは就寝、児嶋さんはストーブの前に寝床を取り、火の番を、それぞれ離れて毛布を敷き9時に消灯した。

19日、午前5時起床、一晩中吹き続けていた強風は相変わらずうなり声をあげている。手早く食事を済ませて出発準備。

志岐さんに手伝ってもらい、焼却炉に溜まった燃え残りを掻き出す。その後燃えるごみを焼却処分した。



出発準備

涅槃岳で

午前6時に出発、ちょうど30分で阿須迦利岳、7時20分証誠無漏岳、8時に涅槃岳に着いた。ここまで倒木などは無く、風が強くて寒い以外は平和な奥駈道だった。

靡看板の設置を始める。杭は深いところまで打ち込むことが出来、一安心。ボルトを取り付けて、杭の穴に入れるがスムーズに入らない。杭の反対側から入れようとしていたので入らなかった。一旦杭を抜き、180度回して再び打ち込み、ようやくボルトを通すこと

が出来た。気温はプラス5℃位と思われるが、5〜7mの北西の風、時折10mを越す突風が吹き続けて体感気温はマイナスになり、ナットの取り付けなどで手袋を外していると、指先がしびれてきた。このトラブルで看板の設置に20分近くかかってしまった。



乾光門南の山抜け

乾光門で

スプレーでマーク

乾光門南の山抜けしている所は以前と変わらない状態に見えた。乾光門の靡看板は15分で設置完了、全員の写真を撮って北上を続けた。

乾光門を過ぎてから風が少し収まって、日差しもあるので暖かく感じるようになった。ここまでは倒木無し。児嶋さんはスプレーでのマーク付けや案内標識を取り付ける。

滝川辻へ下る途中から倒木が出始めた。滝川辻までに2本を切除、いずれも直径10cmほどの木で、処理に時間はかからなかった。吉野から入山して5日目と言う若者に出会う。明日中に本宮に着きたいのだが、食料が残り少ないので心配だという。小屋に非常食が

あるので利用するように案内して別れた。
滝川辻から般若岳の間でも倒木があり切除。前半に倒木は無かったが、後半に倒木が連続していた。



新設の案内標識



倒木処理



倒木処理が続く



笠捨山を望む



倒木処理

以前より残されていた古いものが中心だが、一年に一度しか通過しないので処理を続けた。

地蔵岳南側の捲き道に標識を立てる予定だったが、うっかり通り過ぎてしまい、戻る時間が惜しいので、地蔵岳を過ぎたところに立てた。地蔵岳に着いて昼食にする。無線機で沖崎さん呼び出すと、湯川君が応答した。太古の辻手前だそう。昼食を終え、嫁越峠まで降りると風もすっかり止み、暑くて汗をかくようになってきた。



地蔵岳北側



嫁越峠北側



石楠花岳北側

一昨年、深仙宿で遭遇したグレートトラバースの田中陽希さんが「修験の道を堪能しました」と言われた登り下りの連続は、奥守岳、天狗山と続くが、強風のおかげで見通しは良く、行仙岳から孔雀岳までの稜線や熊野灘までもがよく見えていた。地蔵岳、太古の辻間でも倒木処理があり、持経宿からの倒木処理数は10本となった。摩看板の設置に35分、倒木処理に40分ほどかかっているの、一時間以上余分にかかったことになる。

石楠花岳付近で出迎えに来たメンバーと出会い、一緒に太古の辻に降りた。太古の辻で休憩、二ツ石には靡看板が設置されていた。残っていたメンバーで写真を撮り前鬼へ下った。日陰に16日頃に降ったと思われる雪が残っていたが、ごく少量で、何年か前の階段が雪に埋もれているような状況は無かった。途中で山川さんが2本、私も2本の倒木を切除した。二つ岩上方の崩落箇所は、雨で岩盤全体が濡れていて通過に慎重を要した。高捲きするととなると20mほど登る必要があり、足場を削るなどの対策が求められる。



蘇谿岳付近、最後の倒木

太古の辻で

二ツ石の靡看板

今日の巡視区間で新しい倒木は少なく、残されていた古い倒木の処理がメインになった。この区間は度々訪れることがないので、できるだけ奇麗にしておこうという思いが有ったので、切れる物は全て切除した。歩行距離は14kmほどだった。

(記：梶野、写真：梶野、志岐)



太古の辻、前鬼間で

小仲坊に到着

行動タイム

持経宿06：02→06：30阿須迦利岳→07：20証誠無漏岳→08：00
 涅槃岳08：20→08：35乾光門08：51→09：41滝川辻→10：04般若岳
 10：54地藏岳11：30→11：53嫁越峠→12：30奥守岳→12：55天狗山
 ↓14：05仙人舞台石→14：15太古の辻14：22→15：0511〇岩→16：15前鬼・小仲坊